

近江鉄道株式会社 本線 彦根口駅構内において発生した
鉄道事故調査について
(経過報告)

令和4年12月22日
運輸安全委員会（鉄道部会）

運輸安全委員会は、令和3年12月27日、近江鉄道株式会社の本線彦根口駅構内において発生した鉄道事故について、令和3年12月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、事実情報に関する情報の入手、原因の分析及び再発防止策の検討のために、さらに一定の時間を要する状況である。このため、本件調査については、本事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件鉄道事故に関し、運輸安全委員会設置法に基づき、鉄道事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本事故の責任を問うために行うものではない。

1. 鉄道事故の概要

近江鉄道株式会社本線は、雪の影響により令和3年12月26日20時23分ごろ、彦根駅から八日市駅までの区間で運転を見合わせた。翌日27日午前に雪が降り止み、13時26分ごろ、本線彦根駅発八日市駅行き2両編成の下り試第91列車は彦根駅を出発した。

列車の運転士は、彦根口駅通過後の13時46分ごろ、岡道踏切道を速度約11km/hで運転中、異音を感知したため、非常ブレーキを使用して列車を停止させた。

列車停止後、除雪対応のため乗車していた同社社員が車両を確認したところ、先頭車両の前台車前軸が左側に脱線していた。

列車には、運転士1名及び除雪対応のため同社社員9名が乗車していたが、負傷はなかった。

※図1に事故現場の位置を、図2に事故現場付近の状況を示す。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和3年12月27日、本事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の鉄道事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、運行記録の分析、気象に関する情報収集、施設及び車両の損傷状況に関する分析等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 運行の経過

近江鉄道株式会社本線は、令和3年12月26日、彦根駅から八日市駅までの区間において雪の影響によりポイントが転換不良となる事象が多発したことから、同区間内において運転を見合わせた。翌日27日午前には雪が降り止み、13時26分ごろ、2両編成の下り試第91列車は彦根駅を出発し、先頭車両の前面下部で前方にある線路上の雪を押しながらか走りした。その後、彦根口駅の手前で減速したため同駅ホームの約10m手前で停車させ運転指令から許可を得て約2m後退し、列車の前面に溜まっていた雪を除雪後に運転指令から許可を得て発車しており、その後退した距離を助走し再び前方の雪を押しながらか走りした。

当該列車の運転士は、13時46分ごろ、岡道踏切道を速度約11km/hで運転中、異音を感知したため、非常ブレーキを使用して列車を停止させた。

列車停止後、除雪対応のため乗車していた同社社員が車両を確認したところ、先頭車両の前台車前軸が左側に脱線していた。

(2) 死傷者

なし

(3) 施設、車両の損傷

- ① 岡道踏切道の左レール頭頂面、内部プレート、埋込ゴムに車輪が走行したことによるとみられる連続的な痕跡
岡道踏切道から見て貴生川駅方の木まくらぎにくぼんだ痕跡
- ② 車体のブレーキばりが曲損、先頭車両の前台車前軸の左右の車輪のフランジ先端部付近に多数の擦過痕、同台車後軸の右車輪のフランジ先端部に多数の擦過痕

(4) 気象

曇り

なお、彦根地方気象台による観測では、本事故の前日における天気概況は、6時から18時まで「大雪、みぞれを伴う」、18時から事故当日6時まで「大雪」であり、本事故の前日における降雪量57cmは同気象台の観測史上最大であった。

4. 今後の調査

本鉄道事故の原因の究明及び事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、更なる事実確認や分析を行う必要がある。

本委員会は、引き続き、分析等によって得られた結果を踏まえて、本鉄道事故の原因等の調査を進める。また、原因関係者からの意見聴取及び関係機関への意見照会を行う。

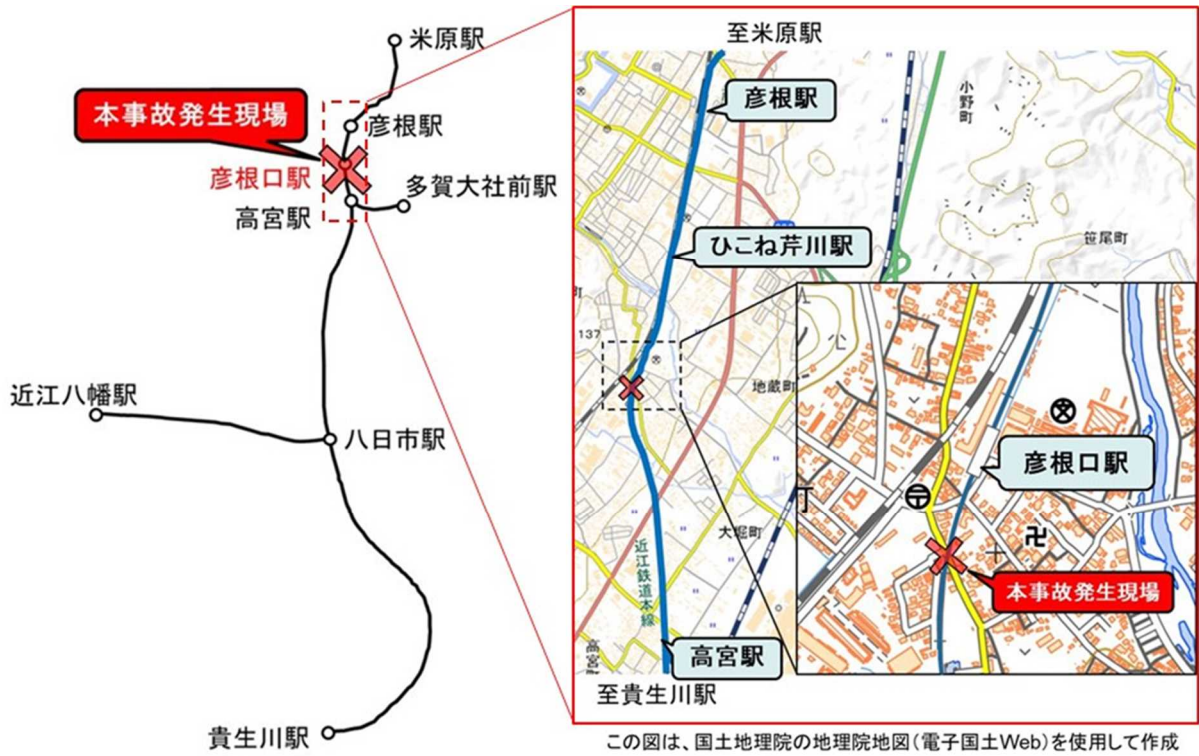
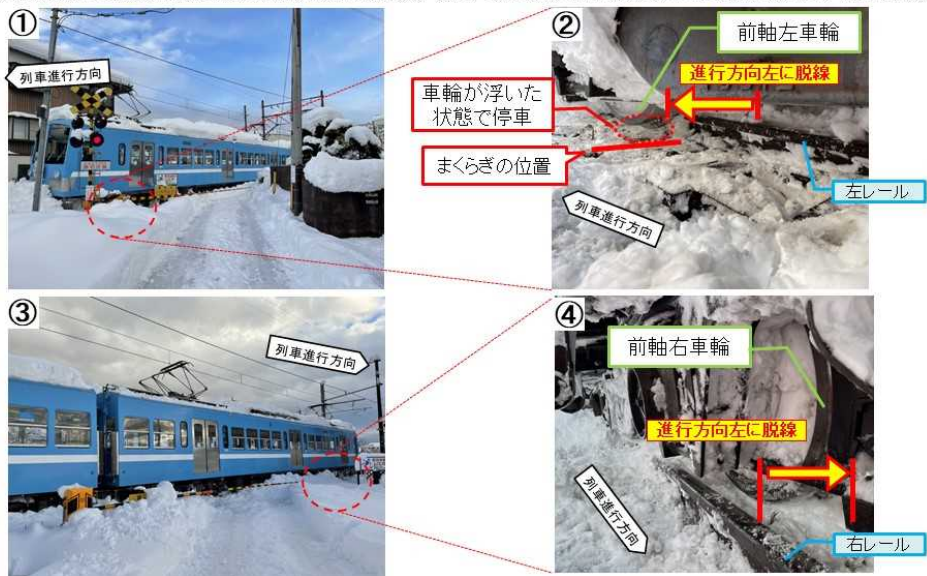
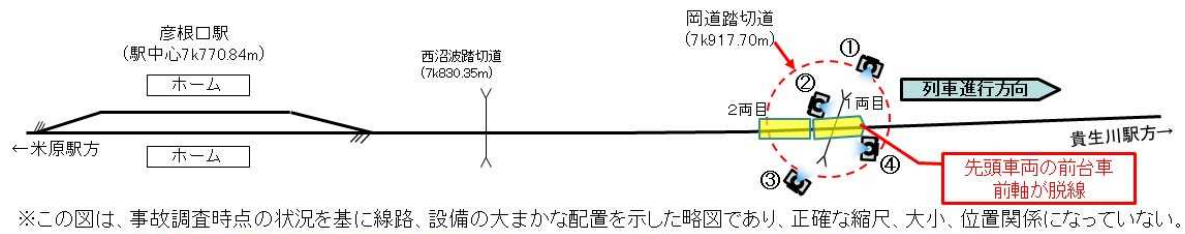


図1 事故現場の位置



事故直後 (鉄道事業者撮影)

図2 事故現場付近の状況